

第一班 報告書

課題： 研究全体の統括

班長： 唐木英明 （東京大学）

班員： 徳力幹彦 （山口大学）

局博一 （東京大学）

伊藤勝昭 （宮崎大学）

品川森一 （帯広畜産大学）

土井邦雄 （東京大学）

種池哲朗 （酪農学園大学）

高橋貢 （日本学術会議、オブザーバー）

松山茂 （日本獣医師会、オブザーバー）

尾崎博 （事務局）

本研究の目的は、我が国の獣医学教育の抜本的改善の方向と方法を明らかにすることである。そのために、わが国の獣医学教育の実態調査、アンケート調査、海外の現地調査および文献調査など数多くの調査を行った。そして、多数の研究班会議を開催して調査結果の解析を行い、概略、以下の結論に達した。

わが国における獣医学教育は、5つの方向の改善が必要である。

第1は、教育組織の充実である。すなわち、新制国立大学では平均して9.5の講座しかもたず、この数では獣医師国家試験出題18科目の教育も十分に行うことができない。私立大学においては、入学定員に比べて教員数が充分とはいえない状況にあることが明らかである。この問題に改善は各大学の努力に待つしかないが、国立大学においては学科の再編整備が唯一の改善手段であろう。

第2は、教育内容の検討である。獣医学に対する社会の要求が日々新たになっている。獣医学教育は基本的な部分と、時代の要請に応じて変化するべき部分とに分けられるが、これらについて検討を行った。

第3は、教育方法の検討である。獣医学に限らず、PBL方式の採用など教育方法の改善が望まれているが、この点について資料を収集し検討を行った。

第4は、獣医学教育に対する自己点検及び相互評価を実施すると共に、獣医学に対する外部評価機関設置の必要性を確認した。

第5は、獣医学教育についての国民の理解を得る努力が必要であることが明らかになった。このような努力の第一歩として、外部の有識者による懇談会を設置し、ご意見をいただいた。

以上の結果を得て、獣医学教育改善の方向と方法について取りまとめを行った。